

■8つの技術分野と4つのコラボレーション機能が融合

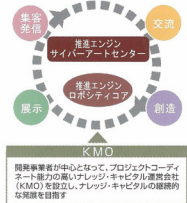
○「先端技術がもたらす未来生活」をテーマに、「ロボットテクノロジー」と「ユビキタス・IT・デジタルコンテンツ」の2つの先端技術分野を中心に8つの技術分野を集積

○ナレッジ・キャピタルの基本機能(創造、展示、集客、発信、交流)に沿って、4つのコラボレーション機能を用意し、8つの分野を有機的に融合



■コラボレーションの推進エンジン

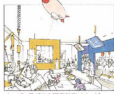
ナレッジ・キャピタルの基本機能を兼ね備えた複合施設(⇒推進エンジン)がナレッジ・キャピタル内の創造・展示・集客・発信・交流機能を強力に循環させ、魅力的なコラボレーション環境を創出



■主要な推進エンジン

○ロボシティコア

- ①ロボットテクノロジーにおける世界水準の研究開発・情報発信拠点
- ②ロボシティコアと相乗効果を生み出す民間企業及び研究機関ネットワークの構築



オープンラボでの研究風景イメージ



スタジアムでのロボットサッカーイベントイメージ

○サイバーアートセンター

- ①先端技術とアート&デザインの融合により未来を生み出す研究開発拠点
- ②ミュージアム・見本市・エンターテインメントの複合した展示空間
- ③イベントの開催



※サイバーアートセンターは、この分野の先進モデルであるオーストラリアシドニー市の独立行政法人「アールスエレクトロニカ」との連携を予定しています



サイバーアートミュージアムイメージ

■ナレッジ・キャピタルに相応しい知的交流に適した空間構成

B地区の低層部全体に広がり、商業施設と一体となって賑わいを形成するナレッジ・キャピタルの中心には、知的交流の中心となるナレッジプラザを設け、創造のみち(ナレッジモール)や細街路によって境界性が高く知的好奇心を刺激する空間を形成



◆ナレッジプラザ

ナレッジ・キャピタルの中心に位置し、先進的なイベントやロボット実証実験等の知的交流の舞台となる円形の取扱空間



◆創造のみち(ナレッジモール)

A・B地区を南北につなぎ、沿道の賑わい施設と細街路の設備により、境界性が高い知的交流に適した空間になるように計画

■大阪駅北地区先行開発区域開発事業者

- NTT都市開発株式会社
株式会社大林組(※1)
○オリックス不動産株式会社(※2)
関電不動産株式会社(※2)
株式会社新日鉄都市開発(※2)
住友信託銀行株式会社(※2)
積水ハウス株式会社
株式会社竹中工務店(※2)
東京建物株式会社(※2)
日本土地建物株式会社(※2)
阪急株式会社
○三豊地所株式会社(※3)

○は開発事業者の代表

- (※1) ナレッジ・キャピタル開発特定開発株式会社及びノースアセット株式会社から開発業務を委託
(※2) 大阪駅北地区開発特定開発株式会社及びナレッジ・キャピタル開発特定開発株式会社から開発業務を委託
(※3) メックアベックシステム株式会社から開発業務を委託